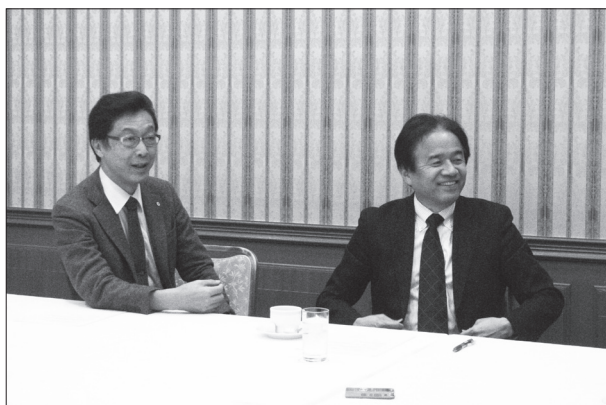


これからの 日本の社会を見据えた医療を

出席者 高久史磨 日本医学会 会長・公益社団法人地域医療振興協会 会長
吉新通康 公益社団法人地域医療振興協会 理事長
折茂賢一郎 公益社団法人地域医療振興協会 常務理事
司 会 山田隆司 地域医療研究所 所長



総合診療医を一つのスペシャリストとして

山田隆司(司会) 今回は新年号ということで、地域医療振興協会の高久史磨会長と吉新通康理事長を囲んでお話をしたいと思います。

現在、わが国のへき地医療や地域医療を取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。そのような中、専門医制度が今大きく動き出そうとしているところで、総合診療医の議論が始まりました。地域医療を考える上では総合診療医の役割は欠かせないものです。高久先生は厚生労働省の「専門医の在り方に関する検討会」の座長を務めてい

らっしゃいましたので、専門医制度が旧来からどのように変わってきて、今後どういう方向へ向かうのか、総合診療医の位置付けも含めて専門医制度全体について、まずお話しいただけますか。

高久史磨 平成22年から1年半くらいかけて17回、「専門医の在り方に関する検討会」を開催しました。その中で2つのことが決まりました。

一つは「日本専門医機構」の設立です。日本における各領域の専門医の認定制度は、昭和37年4月に発足した日本麻酔指導医制度が最初でした。そ

の後、学会がそれぞれの分野の医療を担当する医師の育成を目的に認定医(専門医)の制度を立ち上げました。さらに各学会の制度を標準化したものとするために「学会認定医制協議会」が発足したのが昭和56年です。その後この協議会は「専門医認定制協議会」「日本専門医認定制機構」と名称と機能を少しずつ変え、平成20年3月、「日本専門医制評価・認定機構」が発足しました。そして、前述の専門医の在り方に関する検討会において、公正で透明性ある専門医認定を行っていくためには当該機構とは別に第三者機関が必要であるとの報告がなされ、当該機構は解散、新たに「日本専門医機構」が設立されました。

検討会で決まったもう一つの重要なことは、これまで基本領域は18でしたが、第19番目の基本領域として「総合診療医」が位置付けられることになったことです。それが大きな変革ですね。

厚生労働省は地域包括ケア、在宅医療にシフトしていく方向を打ち出しています。高齢者は複数の病気を持っている人が多いので、これからの高齢化社会における地域包括ケアを考える上では総合診療医が非常に重要になってきます。自治医大の卒業生はこれまでも総合医としての役割を果たしてきたわけですが、総合医による医療が今後日本の医療の中心になってくると思います。

吉新 通康 地域医療振興協会の定款では昭和61年の時点ですでに「総合医」という言葉を使っています。

高久 総合診療部の人たちが、はじめに総合診療医という用語を使ったわけですが、私自身は総合医という用語の方が適切ではないかと思っていました。総合医の役割は「診療」だけではありませんから、でも単に用語の問題ですから、それよりも19番目の基本領域に位置付けられたことが重要だと思います。

山田 先生がおっしゃったように自治医大の卒業生は、普通は避けたがるようなへき地の医療を担って、そこで求められることに対応してきたわけ

ですね。

高久 へき地の医療は総合診療医でないとできません。例えば離島では全て自分で対応しなければならないわけですから。これからはますます高齢者が増えるのでもっともっと総合診療医の数が必要です。医者の方半くらいが総合診療医であってもよいと思います。

山田 自治医大の卒業生は、自分がやりたいことをやってきたわけではなく、その場のニーズに合わせてやってきた。そうしてできてきた概念が総合診療医であって、それが今、専門医制度の議論の中心になっているというのは運命的なものを感じます。しかし日本の医学教育の中で、それはどちらかといえば取り残された分野だったのではないかと思うのですが。

高久 かかりつけ医という言葉が一般的に使われていたのでそういう概念が見えにくかったのですが、実際には開業の医師の多くは総合診療を実践されてこられたわけですから。確かに医学教育の中ではあまり扱われてきませんでした。

吉新 海外を見ても一般的に半数がプライマリ・ケア、半数がスペシャリストです。診療報酬も極端にいうとスペシャリストはプライマリ・ケアの倍近いので、専門医ばかりだと医療費ばかりが上がって、しかも主治医がいないという状態になってしまいます。

山田 そうですね。そういうところはシステム上にも問題があったのだと思います。かかりつけ医という言葉にしても、患者さんが3人の医師にかかりつければ3人のかかりつけ医ができるわけですね。

吉新 病気別にかかりつけ医がいることもあります。

高久 大学の専門外来も患者さんにとってはかかりつけ医になるわけですからね。

山田 そうですね。曖昧な形でかかりつけ医という言葉が長く使われてきたことも、総合診療医の概念の確立を遅らせたような気がします。今回この議